

外来魚駆除活動の展望

平成22年6月 晴佐久

● はじめに

5月30日に湖北土地改良区の主催で開催された「第4回余呉湖外来魚駆除釣り大会」の様と今後の外来魚駆除活動の展望について触れてみたい。

● 余呉湖の役割

余呉湖は、琵琶湖の北東部に位置する天然湖であった。また、この地域では、余呉川、高時川等多くの河川が有るものの、水田は扇状地に位置しているため地下浸透が甚だしく、頻繁に用水不足に陥っていた。この状況を抜本的に改善するため、昭和40年に開始された国営湖北土地改良事業により、給水源として余呉湖の役割に着目し、琵琶湖から揚水した水を余呉湖に貯めて、新たに河川を横に結ぶ水路を築造し、この地域の水のネットワークを形成することに成功した。時は流れ、営農形態の変化により水源利用が困難になったこと、水利施設の経年劣化による維持管理労力の負担が増してきたこと等の問題が顕在化し、平成11年より国営新湖北土地改良事業を実施することとなった。この新しい事業では、水利施設の機能回復とあわせて、地域住民の参画を促して整備方針や維持管理計画を作成することにより、地域の共有の財産として水利施設を認識してもらい、今後の維持管理活動に多くの住民が携わるよう啓発活動も実施している。

● 余呉湖の外来魚駆除活動

上記のとおり、余呉湖は地域の農業用水をまかなう上で欠くことのできない役割を担っている。また、余呉湖は、閉鎖性水域であり多くの固有種が生息するとともに、地域の水産資源の供給源としても貴重な湖である。ところが、近年、琵琶湖と同様に、ブラックバスやブルーギルが数多く生息するようになり、固有種や在来種の魚の数が減少する事態に陥ってしまった。この状況を改善するため、2007年より湖北土地改良区が主体となり、長浜市漁業協同組合の協力を仰ぎながら、外来魚の駆除活動に乗り出したのである。

今年で4回目となる外来魚駆除大会は年々参加者が増えており、近畿農政局からも10名が参加し、余呉湖の生態系保全の活動の一助となるよう汗を流した。今年も、例年に比べ、捕獲量が約57kgと少なかったそうであるが、参加者は200人を超え、今後益々取り組みが広がっていくものと期待される。なお、このイベントは、滋賀県による支援を受けており、捕獲した外来魚は決められた調査を実施し、捕獲量を報告することとなっている。



琵琶湖の外來魚駆除活動

滋賀県では、2002年度から「外來魚駆除促進対策事業」に本格的に乗り出し、県漁業協同組合連合会等による琵琶湖での駆除対策を強化した結果、外來魚の生息量の減少が見られるようになった。これを示すデータとして、2008年度までの駆除量は500トン程度で推移してきたが、2009年度は357トンにとどまっている。県水産課による推定では、2009年4月の琵琶湖の外來魚推定生息量は5年前に比べて、ブラックバスが100トン減の300トン、ブルーギルが500トン減の1100トンと予想している。（京都新聞より引用：4月29日『琵琶湖の外來魚駆除量最少 県漁連～小型魚の割合高く』）



また、琵琶湖では他にも、個人のボランティアベースで活動している『琵琶湖を戻す会』などの民間団体による駆除活動も盛んに行われている。この団体は、もともとインターネット上のサイトを通じて知り合った人たちが琵琶湖の生態系を取り戻すという共通の目的のもと集まり、2000年から外來魚駆除大会や意見交換会の開催により外來魚駆除の啓蒙に努め、2008年には「野生生物保護功労者表彰」において活動実績が認められ環境省自然環境局長賞を受賞している。なお、この団体の詳細な活動内容については、下記ホームページをご覧ください。

（参考）滋賀県水産課HP：

<http://www.pref.shiga.jp/g/suisan/mamorou-b-s/gairaigyotaisaku/gairaigyotaisaku-text.html>

（参考）琵琶湖を戻す会HP：<http://homepage2.nifty.com/mugituku/index.html>

今後の展望

琵琶湖流域では、外來魚駆除活動が盛んに実施されており、その数は減少したとはいえ、依然として生態系のバランスを回復するうえで無視できない量であり、引き続き駆除を継続していく必要がある。今後は、様々な活動を行っている各種団体が、琵琶湖周辺の生態系を取り戻すという共通の目的に向かって、一致団結して協力しながら実施していくことが望ましいのではないのでしょうか。

私も、継続的にこういう地道な活動に携わり、そこで知り合いになった方達と交流を深め、『農の営みの再生』という自分の人生の目的に向かって、私生活においても活動していきたいと考えている。

なお、右図は前述の『琵琶湖を戻す会』が子ども向けに作成したリーフレットであり、とてもよくまとまっているので、参考までにご紹介します。

どうしてバス・ギルをたいじするの？

どのお魚なの？
ほんとは北アメリカだけにすんでいた魚で、はじめは食べるつもりで日本の一部の湖につれてこられました。

なぜ日本中にいるの？
ルアーつりをして楽しみたいとおもった人や、ルアーつりでお食うけをしたいとおもった金魚が日本全国にもって行ってにがってしまったからです。

たいじしたお魚はどうなるの？
この大会でたいじしたお魚はすべて粉にして、農家の人たちの畑のひりょうや、かちくのエサとしてつかわれます。

日本の池や川ににがしたらどうなるの？
日本の池や川にもともとすんでいた魚たちにとってバスやギルは、出あったことのない肉食の魚です。バスやギルが持ち込まれ、もともといた日本の魚がいなくなってしまう場所もたくさん知られています。

これからどうすればいいの？
いちばんたいせつなのは、バスやギルはぜったいににがしてはいけないということです。

今いるバスやギルはどうすればいいの？
いまのこっている日本の川や池のいきものたちをたすけるために、できるだけたくさんたいじしなければなりません。

一度いなくなったいきものは、二度ともとはもどせません。
ざんねんながら、バスやギルとほろびそうな多くの生きものたちとは、いっしょになかなかよくくらせないのです。

琵琶湖を戻す会：<http://homepage2.nifty.com/mugituku/index.html>